



社会福祉法人 京都杉の木会
京北やまぐにの郷

2025年4月
No.4

や・ま・ぐ・に

～私たちのことを私たち抜きで決めないで～

Nothing About us without us

どんなに障がいが高くても、誰にも必ず「意思」（気持ち・思い）はある！
障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）より

入所施設利用者への意思決定支援の一環として、国からは『地域移行の意向を確認する』指針が示され、令和7年度中の『地域移行等意向確認体制の整備』が義務付けられています。京北やまぐにの郷でも今年度より意向確認の担当者を選任し、自分たちのことは自分で決める。当たり前前（のこと）が当たり前前（になる）ように支援していきます。

どんなに重い障害があろうと、そこに意思はあるのだと皆が思える世界を目指します。障がい者が社会に合わせるのではなく、障がい者を包括した社会となるよう、誰もが暮らしやすい社会にする。そのために法人も取り組んでまいります。

《意思決定支援とは？》

自ら意思を決定することに困難を抱える障がい者が、日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることができるように、可能な限り本人が自ら意思決定できるよう支援し、本人の意思の確認や意思及び選好を推定する。また、支援を尽くしても本人の意思及び選好の推定が困難な場合には、最後の手段として本人の最善の利益を検討するために事業者の職員が行う支援の行為及び仕組みをいいます。



「自閉スペクトラム症」って？？？ （第4回）

今回は視点を变えてお送りします。今までは、診断や困りごとに目を向けて、自身も周りも生きやすくなるためには・・・といったことについてお届けしましたが、今回は、私たち凡人が「おかげさまで！」と感謝したくなる内容をお伝えします。

昔は発達障害（自閉スペクトラム）という認識がなかったので、変わった人や困った人と揶揄されてきました。
でもその方達のおかげで、私たちは今の暮らしを送れているとしたらどうでしょう？

始めに紹介するのは、『トーマス・エジソン』
アメリカの発明家で、学歴はないものの1000個以上の発明をしました。電球や電灯、蓄音機、電話など、現在の明るく便利な生活をつくった偉大な人物です。
彼は、子どもの頃は先生の話や聞かず、計算も苦手、読むのも苦手で、学校の勉強は全くできず、奇行も目立ち、学校を追いつ出されたそうです。【ADHD、LD、アスペルガー】

次に、Mac、iPod、iPhoneなどで有名な「アップル」を立ち上げた実業家で工業デザイナーの『スティーブ・ジョブズ』。
強い思い込みと強いこだわりで、製品を開発し世界的ヒット商品を作り上げてきました。・・・が、実生活では、若かりし頃ベジタリアンで肉は食べないから体は汚れない！と、風呂に入らず髪を切らずニオイで苦情が出るほど臭かったそう。【ADHD、アスペルガー】

他にも挙げればキリがありません。そのような方達が奇天烈な発想や強いこだわりで文明を切り拓き、私たちはその果実を享受しているのです。

そう考えると、大きな枠組みで発達障害者と称される人々に畏敬の念さえ抱いてしまふ。この思いを以て、天才・発明家とならなかった生きづらさを抱えている発達障害者に寄り添うことは、私たち凡人としての務めと・・・今もこれからも共に歩んでいきたいと思わずにはいられない・・・。

編集後記

新しい年度が始まり、桜の花の便りが聞かれる頃となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか？
昨年度は新型コロナウイルス感染症が施設内で蔓延し、改めて健康を維持していくことの難しさを思う年となりました。それでも秋には設立35周年記念の集いを開催することが出来ました。
職員一同今まで以上に良い支援をして行こうと思いを高める機会となりました。
利用者にとって笑顔あふれる明るい日々となるように支援の質の向上を目指していきたく思います。
その一つとして、昨年度から取り組み始めた余暇活動の充実が上げられます。其々の利用者や少人数のグループでお仕事以外の取り組みをするというものです。
数時間の関りの中に、たくさんの笑顔や、その利用者らしさが見られ、その場も明るくなるように感じます。
そうした時間を共有し、ここやまぐにの郷全体が、さらに活気に満ちた明るい施設になっていければなどと思っています。
そのような様子を、今年度広報誌を通じて皆様にお伝えしていきますので、お楽しみに！！

栗山 佳人

発行：社会福祉法人 京都杉の木会 京北やまぐにの郷
〒601-0314 京都市右京区京北大野町菖蒲ヶ回互10-2
TEL 075-853-0571
Fax 075-853-0372

～令和7年度 法人展望～

昨年の設立35周年を節目に、初心に帰り～新たな歩みを踏み出そう！～とのことで、一歩ずつではありますが着実に動き出している空気を感じています。

今年10月に区切りを迎える中期経営計画に掲げています「新規事業に向けての協議」についても一旦の着地を見せ、次の中期経営計画に反映するべく進めているところです。

組織についても、次世代の活躍を期待し世代交代に向けて動き出しています。キャリアパス制度も実戦形式の運用を開始、職員育成にも力を注ぎ法人理念を具現化する職員集団となることを期待して歩みを進めています。



～委員会活動～



虐待防止・身体拘束適正化委員会



定例会議の開催と検証を行うほか、内部研修として全職員対象に小グループでの研修を数回に分けて行っています。



衛生推進委員会(5S活動含む)



衛生推進者を中心に、施設でより安全で衛生的・健康的に過ごすため、点検を行い改善します。



感染症対策委員会



看護師を中心に、感染課題を明確にして施設内での感染対策、及び拡大防止の取り組みを行っています。



防災委員会



各種の災害時に対応できるよう防災対策を確認更新します。
定期的に避難訓練を実施し、利用者および職員に防災に対する意識向上を図ります。



～京北やまぐにの郷 事業計画～

前年度、男性40名として再スタート、新たな気持ちで前を向いて歩み始めることとなりました。

施設支援では、利用者の「地域生活移行を支援するための体制」を整備し、地域移行等の意向確認が義務付けられる中、ご本人が希望する暮らしを導き出して可能な限り叶えられるように努めていきます。

日中支援においても作業に固執することなく、生活力を高める活動や遊び・彩りのある活動にも軸足を置きながら、利用者お一人お一人が主体的に取り組めるプログラムを提供していきます。

～委員会活動～



サービス向上委員会



日中活動全般をより有効にするための活動を模索し、実践します。(クラブ活動等)



広報誌委員会



年4回発行を目標に、郷の活動紹介や自閉症への理解を促進し、地域との共生に向け広報誌を作成します。



創立35周年記念誌編集委員会



記念誌発行に向けて、企画・立案・実行までを担い取り組みます。



給食委員会



毎月の献立の振り返りや、委託業者との会議で栄養だけでなく、利用者方の食の楽しみを守ります。

